

指導資料



鹿児島県総合教育センター

国語 第101号

- 小学校対象 -

平成16年5月発行

魅力ある国語教室の創造

「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導方法の工夫例

教育課程及び指導の充実・改善を進めるに当たっては、児童の[確かな学力]の状況を的確に把握し、それに基づいた方策を構築していく必要がある。平成14年4月から施行されている「小学校設置基準」においても、教育課程の実施状況に対する各学校の自己点検・自己評価の実施やその積極的な情報提供を求めており、児童の学力の定着状況を把握するとともに、必要に応じて公表し、学校運営や指導方法改善に生かすことが、これまで以上に重要視されている。

このような流れを受け、鹿児島県教育委員会では、平成15年4月に「『基礎・基本』定着度調査」を実施し、同12月に調査結果と考察、指導方法改善のためのヒント等を、「『基礎・基本』定着度調査結果報告書」(以下「報告書」)としてまとめた。

そこで、本稿では「報告書」のより一層の活用とその普及を図るとともに、基礎・基本を確実に習得することができる国語教室の創造をねらい、国語科学習指導の在り方等について述べる。

1 「基礎・基本」定着度調査結果の概要

(1) 国語等に関する意識の傾向について

ア 国語への関心

「国語の勉強が大切だと思う」と答えた児童は小学4,6年生共に70%弱で、「どちらかといえば思う」と答えた児童までを含めると90%を超える。一方、「国語が好き」と答えた児童は小学4年生31%,6年生24%であり、勉強の意義は理解できるものの、国語が好きとまでは言えない児童の多いことが課題として挙げられる。

また、国語の授業が「分かる」と答えた児童は、国語が「好き」と答える傾向にあることから、国語好きの児童を育成するためには、分かる授業の構築が不可欠であると言える。

イ 読書への関心

「読書が好き」と答えた児童は小学4,6年生共に50%前後で、「どちらかといえば好き」まで含めると、小学4年生では83%に上る。一方、読書時間については、「30分未満・ほとんど読まない」児童の割合が小学4年生で48%,6年生で57%であり、読書は好きであるが、実際に読むまでには至らない傾向がうかがえる。読書の機会を

意図的，計画的に設け，読書活動の充実を図る必要がある。

(2) 各学年ごとの内容・領域別分析について
第4学年における平均通過率では，「書くこと」が66%で最も低い。具体的には，一つ一つの文の成り立ちについて理解し，修飾語を使って主述の照応する整った文が書けない傾向がみられた。

第6学年における平均通過率でも，「書くこと」が51%で最も低い。具体的には，依頼文を敬体で書いているものの，依頼の目的や内容など依頼文として大切な要素が欠落する傾向がみられた。

2 調査結果に対する改善策等

(1) 国語好きを増やす方策について

ア 魅力ある学習活動設定の工夫

国語学習に興味・関心をもたせ，自ら進んで学習する児童を育成するためには，楽しく学べる魅力ある学習活動を設定していくことが大切である。

例えば，授業中の音読活動において，「教師の範読」「一文ずつの追い読み」「児童相互の交代読み」「児童全員による一斉読み」の流れを基本に反復学習をさせることは多い。ここで，「一文ずつの追い読み」の活動において，教師の読みを次第に早めるといった早口言葉のゲーム性を取り入れるならば，児童の視点が教材から次第に離れ，そのまま暗唱の活動につながるといことも考えられる。

また，教材の魅力を実感できる学習環境を通して，児童の興味・関心を喚

起することも大切である。

例えば，第3学年教材「白いぼうし」を学習する際は，作者あまんきみこの作品をブックリストにして配布したり，ファンタジー小説を学校図書館等に展示したりするなど，児童が興味をもって学習に取り組むことができるよう，学習環境を整えることが考えられる。

表 ブックリスト例（徳之島町亀津小学校 実岡和江教諭の実践を基に作成）

＜あまんきみこの作品のしょうかい＞				
本の名前	かんたんしょうかい (または，感想)	本のあ る場所	内容 のてい ど	読 後 の サイ ン
おっこ ちゃん とタン タンう さぎ	おっこちゃんの初めてのなかよしさんは，ぬいぐるみのタンタンうさぎ。タンタンといっしょだと楽しいこと，不思議なことが次から次へと...	学校図 書館		
えっち ゃんと ミュウ	えっちゃんとなこのミュウは，とてもなかよし。ある日，とらの家におよばれたミュウ...	学校図 書館		
ちびっ こちび おに	ぼうしでつのかくし，洋服を着て人間の子どもになりました小おには，町へやってきましたが，ようち園にまよいこんで思わぬことが...	町立図 書館		
のはら のうた	小さいカヨが子犬のシロをひろってきました。カヨは，シロは空から落っこちてきたと言っているが...	学校図 書館		
だあれ もない？	なわとびあそびがへたな女の子。みんなじょうずにとべません。一	町立図 書館		

【内容のていど】 :少しむずかしい :ぶつう

イ 読書の習慣化を図る方策

読書離れや読書時間減少の状況を改善するために，学校と家庭・地域社会との連携の下，読書活動を推進する必要がある。また，学校が家庭や地域内の関係施設等と連携を密にして具体策を講じることも大切である。

例えば、学校においては、地域の人材を活用した「読み聞かせ」の時間を設定したり、家庭にある図書を借り受けて読書環境を整えたりするなど、児童が読書に魅力を感じる様々な方策を図ることが大切である。また、家庭との連絡帳の中に読書傾向について記録する欄を設け、学校や家庭での読書傾向を相互に情報交換したり、図書館便りなどで地域の図書館の情報を提供したりするなどの工夫を図ることも効果的である。さらに、読書活動を取り入れた指導過程や年間指導計画を作成し、発達段階に即した読書活動を積極的に授業に取り入れ、児童が主体的に読書に勤しむことができる環境を整える必要がある。

(2) 整った文を書くための指導策について

ア 取り立て指導の充実

文の構成等についての初歩的な理解を促すために、主語と述語及び修飾語と被修飾語との関係については、取り立て指導を行う必要がある。その際、発達段階に応じて系統性に配慮した指導になるよう、工夫する必要がある。

例えば、「くわしくする言葉」(3年)などで文の成分に分け、詳しくする言葉を付け加える学習をさせたり、「言葉でスケッチ」(3年)などで修飾語を並べ換えて表現の効果を比較する学習をさせたりするなど、どの学年において、いつ、どこで、どのような指導を行うかについて明確にし、児童の理解を促す取り立て指導を適宜取り入れる必要がある。

イ 視写や聴写などの指導の充実

ワークシート等を授業に活用することの有効性は衆目の一致するところであるが、単に単語や符号などを書き入れるものよりも、視写や聴写などを通して短文全体を書き入れる様式のワークシートづくりに心掛ける必要がある。その際、教師があらかじめ視写や聴写などをさせた名文を教材等の中から事前に用意しておくなど、名文に触れさせる場の設定を日ごろから工夫して増やすことが必要である。

ウ 反復学習の充実

主語と述語及び修飾語と被修飾語との関係などを明確にさせるためには、家庭との連携の下、視写や多様な言い換えによる短文づくり、2文を1文にするために接続詞や助詞、言い回しを使う練習など、様々な反復練習を取り入れることが大切である。

また、文の中での語句の係り方や照応の仕方を理解させるとともに、いろいろな文の構成があることについて、「読むこと」の単元で確認させたり、「書くこと」の単元で実際に書かせたりするなど、指導を工夫することも大切である。その際、家庭学習において、その日の授業で学習した表現を用いた短文等を「短文集ノート」にまとめさせ、「書くこと」の単元で活用させる工夫を図る必要がある。

(3) 依頼文の書き方における方策について

ア 付箋紙の活用や評価方法の工夫

伝えたいことを明確にするために、学校生活の中から伝えたい題材を選び、カード等にまとめ、分かりやすいように

再構成し，詳述，略述の使い分けを用いて書く活動をさせることが大切である。その際，付箋紙等を活用して伝えたい題材を整理させたり，相手意識をもたせたりするなど，活動上の留意点をあらかじめ明確にしておく必要がある。また，伝えたいことが正しく相手に伝わったかなどを確かめるため，自己評価や相互評価など，様々な評価方法を有効に活用する必要がある。

イ 実用的な文章を書く機会の拡充

新聞の記事などから分かりやすい広報誌やパンフレット



図 パンフレットの作成を作ったり，物語の作者に対する手紙の書き方を練習したりするなど，実用的な文章を書く機会を増やすことが大切である。その際，発達段階に応じて系統性をもたせた指導になるよう，各学年ごとに，いつ，どこで，どのような指導を行うかなどについての指導過程を明確にしておく必要がある。

また，新聞記事や，テレビ，ラジオなどのニュースを基に，読者や視聴者に対する様々な配慮について調べ，友達に分かりやすいよう，書き換えて伝える指導を行う必要がある。その際，「子ども新聞」を編集させたり，「子ども放送局」の放送原稿を書かせたりするなどの学習活動を位置付けることで，児童が楽しく学習でき，実用的な文章を書く活動の工夫を図ることが大

切である。

ウ 生きて働く力につなぐ指導の充実

依頼状・お礼状に関しては，国語科に限らず，生活科や総合的な学習の時間における校外研修等の機会を利用して実際に書かせるなど，実生活の場で生きて働く力となるよう配慮する必要がある。また，家庭との連携の下，手紙を書く機会を増やすなど，様々な文種に接する機会を設けることも大切である。

3 授業と家庭学習とのつながりを目指して

「基礎・基本」の確実な定着を図るには，授業時ごとに，これまでの学習内容を繰り返し確認する場を位置付けるとともに，家庭学習の充実につながる授業展開を工夫することが大切である。

例えば，家庭学習で短作文を書かせる場合は，授業時に書き出し等を具体的に指導するなど，児童が家庭での学習をスムーズに進めるための手だてを事前に講じることが大切である。また，漢字や語句の意味を家庭で調べさせる際も，授業時に国語辞典を用いて幾つかの漢字や語句を調べる活動をさせることで，家庭学習での意味調べを円滑かつ充実したものにすることができる。

児童が学ぶ楽しさを実感し，国語好きになるためには，分かる授業を構築することを含めた魅力ある国語教室を創造する必要がある。改めて「報告書」を精読し，授業改善に活用されることを期待する。

(教科教育研修課)